

「一眼は遠く歴史の彼方に、そして一眼は脚下の実践へ」

森 信三

戦後最大の国防上の危機が、我が国の目前に迫っています。今までは、他国のこと、他人のことと考えていましたが、一昨年二月の大国ロシアによるウクライナ侵略の現実を見て、これは明日の我が国のことだと戦慄が走りました。

中国共産党の独裁者習近平も、ロシアの独裁者プーチンと全く同じ思考回路を持ち、何時、台湾に軍事侵攻するかわかりません。

その時こそ、我が国が戦争に巻き込まれる時です。否、既に中国共産党は、あらゆる手段を使い、我が国に侵攻を始めています。中国共産党の「国家安全維持法」や「反スパイ法」で、邦人を拘束し、日本国内に「中国共産党の警察署」を複数箇所設置していることが判明しています。サイバーや電磁波領域への攻撃は、日常茶飯に進められています。

この危機に早く目覚め、具体的な対応をする必要があります。

政府や政治家の責任を問うと同時に、中小企業三百万社の社長一人一人が、立ち上がりましょう。かつて、松下幸之助は「会社は公器」と述べました。

利益を出して、従業員を守り、地域に貢献し、できるだけ多く税金を払い、積極的に国防や外交に資金を回し、真の平和を維持して参りましょう。

それが社長という仕事をさせてもらう者の尊い使命ではないでしょうか。

最後に安岡正篤師の『萬燈行』を掲げて、我々の覚悟を決めましょう。

内外の状況を深思しましょう。

このまま往けば、日本は自滅するほかはありません。

我々はこれをどうすることも出来ないのでしょうか。

我々が何もしなければ、誰がどうしてくれましょうか。

我々が何とかするほか無いのです。

我々は日本を易えることが出来ます。

暗黒を嘆くより、一燈を付けましょう。

我々はまず我々の周囲の闇を照らす一燈になりましょう。

手のとどく限り、至る所に燈明を供えましょう。

一人一燈なれば、萬人萬燈です。

日本はたちまち明るくなります。

これ我々の萬燈行であります。

互いに真剣にこの世直し行を励もうではありませんか。

今月のポイント

民度の高い日本こそが

平和を守れる

